

## タマネギべと病の発生に注意しましょう

3月上旬の病害虫巡回調査で、50%のほ場でべと病の発生を確認しました。本病原菌は、土中の卵胞子によって秋～春にたまねぎに感染し（一次感染）、その後発病株に形成された分生子によって伝染を繰り返します（二次感染）。15℃前後の気温で、雨が多いと本病の発生が多くなりますが、1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並であることから、今後の発生増加が懸念されます。適切に防除を行い、被害の発生を防ぎましょう。



写真1 発病株（一次感染・矢印）



写真2 発病株に形成された分生子

### 【防除対策】

1. 雨水が停滞すると本病が発生しやすくなるので、排水溝（明渠）の整備や排水口の点検を行う。
2. 発病株の早期発見に努める。発病株は速やかに抜き取り、ほ場外で処分する。
3. 農薬情報（表1）を参考に、薬剤防除を行う。予防を重点にジマンダイセン水和剤等を散布し、発生が見られたらホライズンドライフロアブル等を散布する。なお、薬剤耐性菌の発生を防ぐため、FRACコードを参考に異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

表1 タマネギべと病の防除に使用する主な薬剤

（令和3（2021）年3月18日現在）

農薬の名称	希釈倍数 又は使用量	使用方法	使用時期	本剤の 使用回数	成分名	FRACコード
Zボルドー	500倍	散布	-	-	塩基性硫酸銅	M1
クプロシールド	1000～2000倍	散布	-	-	塩基性硫酸銅	M1
ジマンダイセン水和剤	400～600倍	散布	収穫3日前まで	5回以内	マンゼブ	M3
ペンコゼブ水和剤	400～600倍	散布	収穫3日前まで	5回以内	マンゼブ	M3
リドミルゴールドMZ	500～1000倍	散布	収穫7日前まで	3回以内	マンゼブ・メタラキシルM	M3・4
メジャーフロアブル	2000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	ピコキシストロピン	11
シグナムWDG	1500倍	散布	収穫7日前まで	3回以内	ピラクロストロピン・ボスカリド	11・7
ドーシャスフロアブル	1000倍	散布	収穫7日前まで	4回以内	シアゾファミド・TPN	21・M5
ホライズンドライフロアブル	2500倍	散布	収穫3日前まで	3回以内	シモキサニル・ファモキサドン	27・11
ナレート水和剤	800倍	散布	収穫14日前まで	3回以内	オキシソニック酸・有機銅	31・M1
カーニバル水和剤	1000倍	散布	収穫7日前まで	3回以内	ジメトモルフ・TPN	40・M5
プロポーズ顆粒水和剤	1000倍	散布	収穫7日前まで	3回以内	ベンチアパリカルブイソプロピル・TPN	40・M5
ジャストフィットフロアブル	3000倍	散布	収穫7日前まで	3回以内	フルオピコリド・ベンチアパリカルブイソプロピル	43・40
ザンプロDMフロアブル	1500～2000倍	散布	収穫7日前まで	3回以内	アメクトラジン・ジメトモルフ	45・40
	24倍 無人航空機による散布					
オロンディスウルトラSC	2000倍	散布	収穫前日まで	2回以内	オキサチアピプロリン・マンジプロバミド	49・40

注1 ドーシャスフロアブル、カーニバル水和剤及びプロポーズ顆粒水和剤はTPNを含むため、これらの剤の使用回数は合わせて6回以内となる。  
 注2 プロポーズ顆粒水和剤とジャストフィットフロアブルはベンチアパリカルブイソプロピルを含むため、両剤の使用回数は合わせて3回以内となる。  
 注3 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤及びリドミルゴールドMZはマンゼブを含むため、これらの使用回数は合わせて5回以内となる。

詳細は、農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi\_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jpnpn.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。